

在宅医療・介護連携推進事業：住民啓発（事例）

（鳥取東健康福祉センター）圏域介護支援専門員・民生児童委員合同研修会

テーマ： ACP（アドバンス・ケア・プランニング）を学ぶ

～ 我が家（うちげえ）に帰りたいで考える、話し合う ～

日時： 平成30年8月27日（月） 13：40～15：40

場所： 国府町コミュニティーセンター1階大会議室

講師： 東部地区在宅医療介護連携推進協議会

足立誠司 副会長（鳥取市立病院医師）

参加者： 22名（民生児童委員・認知症家族の会）、医療介護関係者34名

【内容】 DVD「我が家（うちげえ）に帰りたい」によるグループワーク研修、パンフレット「さいごまで自分らしく豊かな人生のためのわたしたちの心づもり」及び終活支援ノート「わたしの心づもり」を使ってACP講義。

（概要）

DVD「我が家（うちげえ）に帰りたい」を活用しグループワークを実施。

（第一幕）退院後は自宅に帰りたい主人公と家族やケアマネなどとの話し合い

①希望する在宅生活を送るには、どのようにしたらよいのでしょうか？

②在宅生活を心配するご家族へどのように対処したらよいのでしょうか？

（第二幕）在宅生活の不安に対し、かかりつけ医も交えての話し合い

①将来、事故や病気などで身の回りの事（食べることも含め）ができなくなり、自分の考えを伝えられなくなった時に、あなたならどのようにして欲しいですか？

②大切なご家族がこのようななった場合、どのようにしてあげたいですか？

なぜ、今、地域包括ケアなのか、自助と互助とは、パンフレット（さいごまで自分らしく豊かな人生のためのわたしたちの心づもり）、終活支援ノートによるACP（アドバンス・ケア・プランニング）の講義もあわせて行った。



【グループワークの主な意見紹介】

■ グループワーク（第一幕）

○裕次郎さんの希望する在宅生活を送るには、どのようにしたら良いでしょうか？

- ・介護保険サービスの利用。通所がいやなら訪問がある。リハビリは継続が必要。
- ・夫婦でどこまでできるか、話し合っただけの方がよい。
- ・本人の「帰りたい」という前向きな気持ちは大切。弱気にならないよう精神的な元気を保てるよう支援することも必要。

○在宅生活を心配するご家族へどのように対処したらよいでしょうか？

- ・何が不安か。専門職が不安を受け止め、予測して、少しずつ解消していく。
- ・困った時に助けてくれる人が必要。家族、近所を含め関係性を作る。
- ・家族だけでなくサービスや地域を巻き込んで、在宅生活はできると説明する。

■ グループワーク（第二幕）

○将来、事故や病気などで身の回りの事（食べることも含め）ができなくなり、自分の考えを伝えられなくなった時に、あなたならどのようにしてほしいですか？

- ・延命治療はして欲しくない。自然体で待つ。でも痛いのはイヤ。
- ・エンディングノート等で大切な人に伝えておきたい。
- ・家族のいい方法で考えたい。施設でも・・・。

○大切なご家族がこのようになった場合、どのようにしてあげたいですか？

- ・親とはこういった話はしづらいが、本音を聞きださなければと思う。
- ・事前に話し合っておくことで、本人の意志を尊重。
- ・話し合っても、いざそうなった時に判断できるかどうか疑問。
- ・家族が嫌な顔で介護するのであれば、施設入所も考える。
- ・話し合っても思いは変わる。その時の気持ちを尋ねる。

【事務局の感想】

鳥取東健康福祉センター（東中・桜ヶ丘中・国府中校区）では、圏域内のケアマネジャーと民生児童委員の合同研修を毎年開催しておられ、連携のキーである「顔の見える関係づくり」に役立っていると感じました。

研修では、何が延命治療なのか「点滴は？」「食事の介助は？」など講師に聞かれ、戸惑いながらも今まで考えたこともなかった内容を参加者全員が一生懸命考えておられたり、講師の問いにも手を挙げて答えたりと、充実した時間であったように感じました。

このような研修会を地域にどんどん広めていきたいと思いました。

（東部医師会在宅医療介護連携推進室：廣山恵看護師）